

## 第17回JAMS研究大会 プログラム

大会委員 金子芳樹(獨協大学)

開催日: 2008年12月6日(土)・7日(日)

会場: 獨協大学 天野貞祐記念館 206教室(6日)、中央棟10階ホール&3階第4会議室(7日)

12月6日(土)

開会の辞

第1セッション〈共通論題〉

「アディル」(公正)を通して見たマレーシア、インドネシアの社会」

司会: 山本博之(京都大学)

趣旨説明: 西尾寛治(防衛大学校)

報告1: 新井和広(慶應義塾大学)「中東社会における公正(アドル)概念」

報告2: 西尾寛治「近世のマレー世界における公正(アディル)概念」

報告3: 篠崎香織(在マレーシア日本国大使館 専門調査員)「マレーシアにおける「公正」を支える論理的根拠の変遷」

報告4: 見市建(岩手県立大学)「インドネシアの福祉正義党(PKS)による「正義」の実践」

コメント1: 弘末雅士(立教大学)

コメント2: 井口由布(立命館アジア太平洋大学)

会員総会

12月7日(日)

(※第2セッションと第3セッションは同時開催)

第2セッション〈個別研究〉

報告 1: 東條哲郎(東京大学大学院)「世紀転換期ペラにおける錫鉱業の展開と採掘用地: 鉱業台帳分析を中心に」

報告 2: 奥村育栄「マレーシアにおけるインド人青少年の「社会病理」: 「教育問題」との関連でみる言説の働き」

報告 3: 仲橋源太(広島市立大学大学院)「クランタン州における PAS の策略: ポンドックの政治的役割に焦点を当てて」

報告 4: 光成歩(東京大学大学院)「現代マレーシアにおける「棄教」と「改宗」」

報告 5: 川端隆史(外務省)「グローバル・ハラル・マーケットへ挑戦するマレーシアとその国家像: イスラームとバンサの関係からの考察」

第3セッション〈個別報告〉

報告 1: 綱島(三宅)郁子「コンラート・アデナウア財団のマレーシア関与: 宗教間対話に関する2006年11月の会合と出版物を中心に」

報告 2: 岡本義輝(宇都宮大学大学院)「商品開発(R&D)技術者と理数教育: マレーシアにおける R&D 技術者育成と理数教育の課題」

報告 3: 西芳実(東京大学)「インドネシア映画が描くバリ島爆弾テロ事件: 「楽園への長き道(Long Road to Heaven)」(2007年)から」

閉会の辞: JAMS 会長 原不二夫(南山大学)